

氏 名	二瓶 映美
学 位 の 種 類	博士（看護学）
学 位 記 番 号	第 2 8 号
学位授与年月日	令和元年 9 月 1 9 日
学位授与の条件	学位規程第 3 条第 4 項該当
学 位 論 文 題 目	産業保健師による成人中期男性労働者の禁煙への取組み状況を把握する質問紙の開発と支援への活用
論 文 審 査 委 員	主査 武田 淳子 副査 高橋 和子，菅原 よしえ

論文の要旨

【背景】産業保健師は禁煙に挑戦する人や禁煙に興味や関心さえない人など様々な喫煙者に対し、継続的に禁煙支援を行っている。禁煙支援の際、産業保健師には喫煙者の現在の禁煙への取組み状況を把握し、それに応じた支援が求められる。これには禁煙成功者が禁煙に取り組んできた体験が活用できると考えた。

本研究では、喫煙者の中でも喫煙率が高い、30 歳代および 40 歳代（以下、成人中期）男性労働者に焦点を当て、検討を行った。

【目的】成人中期男性労働者のうち、禁煙成功者が禁煙に取り組んできた体験から、禁煙成功に至った取組みの特徴を明らかにし、その結果から、禁煙成功に至った取組みに関する要素を特定する。そして、それをもとに産業保健師が成人中期男性労働者の喫煙者の禁煙への取組み状況を把握する質問紙を開発し、その支援への活用について検討し、支援マニュアル（試案）を作成する。

【方法】本研究は、2 段階で構成した。第 1 段階の研究では、成人中期男性労働者の禁煙成功者が禁煙に取り組んできた体験から禁煙成功に至った取組みの特徴について、インタビュー調査を行い、質的帰納的分析により明らかにした。第 2 段階の研究では、禁煙成功に至った取組みに関する要素を特定するため、第 1 段階の研究により抽出された概念をもとに調査票を作成し、予備調査を実施した。探索的因子分析を行った後、調査票を修正し、本調査を実施し、確証的因子分析を行った。そして、信頼性および妥当性を検証した。その後、特定された要素をもとに産業保健師が成人中期男性労働者の喫煙者の禁煙への取組み状況を把握する質問紙を開発し、その支援への活用について検討し、支援マニュアル（試案）を作成した。

【結果】第 1 段階の研究では、成人中期男性労働者の禁煙成功に至った取組みの特徴として、683 のラベル、117 のサブカテゴリー、32 のカテゴリーが抽出され、最終的に 9 つのコアカテゴリーが抽出された。第 2 段階の研究では、サブカテゴリーに基づき、スーパーバイズをふまえ、118 項目からなる調査票を作成し、予備調査を行った。探索的因子分析により、47 項目からなる調査票を作成し、本調査を行い、確証的因子分析を行った結果、成人中期男性労働者が禁煙成功に至った取組みの特徴に関する要素は、「喫煙欲求への対応状況」「禁煙成功に伴う効果の実感」「禁煙に対する前向きな認識」の 3 要素 17 項目として特定することができた。その信頼性については検証することがで

き、妥当性についても概ね検証することができた。これに基づき、質問紙および支援マニュアル（試案）を作成した。

【結論】開発した質問紙を用いることで、産業保健師が成人中期男性労働者の喫煙者の現在の禁煙への取組み状況を把握でき、必要とされる支援を検討できると示唆された。しかし、作成した支援マニュアル（試案）の有効性については、さらに検証していく必要がある。

キーワード：成人中期，男性，禁煙支援，産業保健師，労働者

審査結果の要旨

本学位論文の目的は、成人中期男性労働者のうち、禁煙成功に至った者が禁煙に取り組んできた体験をもとに、成人中期男性労働者の禁煙への取組み状況を把握する質問紙を開発し、産業保健師が活用できる支援マニュアル（試案）を作成することである。

本研究は、1) 禁煙成功に至った成人中期男性労働者が体験した禁煙への取組みの特徴の明確化、2) 成人中期男性労働者の禁煙への取組み状況を把握する質問紙の開発と、支援マニュアル（試案）の作成の2段階で実施された。第1段階では、A県内の産業看護職のネットワークを通じて依頼し、了承を得た4社、1診療所から選出された30～40歳代の成人中期男性労働者で、過去に日常的な喫煙経験（平均喫煙本数5本/日以上）を有し、禁煙外来での治療を受けずに調査時点において6か月以上禁煙を継続できている者（以下、禁煙成功者とする）14名を対象として半構造化面接を実施した。得られたデータを質的帰納的に分析した結果、683のラベル、117のサブカテゴリー、32のカテゴリー、9のコアカテゴリーが抽出された。第2段階では、第1段階で抽出された117のサブカテゴリーをもとに、質的研究や公衆衛生看護学、精神看護学の専門家、ならびに長年禁煙支援に携わった経験を有する保健師等のスーパーバイズを得て118項目からなる予備調査版調査票を作成し、B地方の産業保健師のネットワーク等を通じて依頼し、了承を得た16施設に勤務する禁煙成功者129名に対して予備調査を実施後、項目分析および探索的因子分析、構成概念妥当性の検討を経て、7因子47項目からなる本調査版調査票を作成した。次いで、全国の54施設に勤務する禁煙成功者105名を対象として本調査を実施し、項目分析および探索的因子分析を経て「喫煙欲求への対応状況」「禁煙成功に伴う効果の実感」「禁煙に対する前向きな認識」の3因子19項目からなる調査票が作成された。さらに確証的因子分析を経て3因子17項目が特定され、調査票全体のCronbach α 係数は0.873と信頼性が確認され、収束妥当性、弁別妥当性の検討により一定の構成概念妥当性が確認された。次に、3因子を禁煙成功に至る取組みの要素と位置づけ、3要素17項目から成る『成人中期男性労働者の禁煙への取組み状況を把握する質問紙』を作成し、質問紙により把握された対象の状況に対して、第1段階の研究で明らかになった禁煙成功者の体験や先行研究の結果から導いた支援の方向性を示す産業保健師のための支援マニュアル（試案）を作成した。

本研究は、世界的にも職場や公共の場所等での受動喫煙防止対策が強化され、健康日本21（第二次）においても受動喫煙防止対策や禁煙希望者に対する禁煙支援への取組みが強調されている中、諸外国に比して喫煙率の高い成人中期男性労働者に焦点を当てている。禁煙成功者の約70%、禁煙希望者の半数以上が自らの意志のみでの禁煙を重視していることに注目し、禁煙成功者の体験を質的帰納的に明らかにする過程を経て、禁煙への取組み状況を把握する質問紙を開発した点に独創性・新規性があり、社会的意義も大きいと言える。

この学位論文について3回の対面審査（令和元年7月12日、7月31日、8月9日）を行い、以下の指摘がなされた。①本研究の意義、位置づけを明確に記述し、論文題目につい

でも再考すること、②今回の研究から言えることと限界について整理し、客観的に論述すること、③調査票の逆転項目の解釈について再考すること、④第2段階、特に支援マニュアル（試案）の作成について研究方法を明確に記述すること、⑤論文全体について論旨の一貫性に留意し、推敲を重ねること、などであった。その後、上記の指摘事項についての論文修正が概ね確認された。

本学位論文は、諸外国に比して喫煙率の高いわが国の成人中期男性労働者について、禁煙への取組み状況を把握する質問紙を開発し、併せて産業保健師が活用できる支援マニュアル（試案）を作成したものであり、看護学の知識体系に新たな知見を与える新規性、独創性を有している。また、さらなる検証による看護実践への貢献性が期待され、社会的意義も大きいことから、審査委員会は、博士（看護学）の学位を授与するにふさわしいものであることを認めた。